これからの附属学校のあり方を考える協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝國分充・東京学芸大学長）は、１１月１８日（土）、全国国立大学附属学校連盟との共催により、これからの附属学校のあり方を考える協議会を東京学芸大学（東京都小金井市）において開催し、附属学校園を置く国立教員養成大学・学部の附属学校担当理事・副学長、学部長、附属学校部長・統括長等及び附属学校園の校園長・副校園長等をはじめとする関係者約１３０名が出席した。

開会の挨拶で國分会長は、「昨今、附属学校ではいじめ等の現代的教育課題に直面している。また、いまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で、インフルエンザの流行も重なり、日頃現場で児童生徒と関わっている先生方には大変な状況が続いており、苦労されていると思う。そのような中ではあるが、本日の協議会が今後の取組に有意義なものとなることを期待している。」と述べた。

引き続き、鎌田正裕全国国立大学附属学校連盟理事長（東京学芸大学附属竹早小学校長）は、「新型コロナウイルス感染症の５類への移行を受けて、皆様の学校でもコロナ禍以前の活動を復活させられてきていると思う。協議会のラウンドテーブルでは、コロナ禍で苦労したこと、経験したこと等を活かしてこれからの附属学校のあり方をもう一度見直す場にしていただきたい。」と述べた。

その後、基調講演として冨田明徳兵庫教育大学附属小学校・中学校長から「附属学校のガバナンスの在り方を考える」ということで、附属学校におけるガバナンスの課題と対策について説明があった。

続いて、ラウンドテーブルとして約１６個のグループに分かれ、附属学校のガバナンスの在り方について、それぞれの立場にとらわれることなく自由で活発な意見交換を行った。

休憩を挟み、文部科学省の説明として、小倉基靖総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長から、「国立大学附属学校のガバナンス」について説明があり、その後寺本俊彦全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会会長から、「国立大学附属学校教育後援会の現状とあるべき姿」について、今年発刊された教育後援会運営ガイドラインに沿って説明があった。

最後に、桑名良尚全国国立大学附属学校ＰＴＡ連合会会長の閉会挨拶があり、盛会のうちに閉会となった。

國分会長

鎌田全国国立大学附属学校連盟理事長

冨田兵庫教育大学附属小学校･中学校長

小倉教員養成企画室長

会場の様子